

○「持続可能な地域づくりとひとづくりを進める『ひとが育ち輝くまち益田』～地域に飛び出す中高生が大人を動かす～」について

<背景など>

- ・益田市の特徴として、萩・石見空港から羽田空港まで約90分と関東圏へのアクセスのよさが挙げられる。また、733平米の面積に20地区の集落、4万4000人の人口で、特に面積の70%が中山間地域で、20地区中3地区が市街地、17地区が中山間地域で、中山間地域の過疎化が進んでいる。
- ・全国2位の余暇時間、合計特殊出生率で、子供を産みやすく、ゆとりのある生活ができるまちである一方、人口流出とUターンしない若者（市内に大学がないこともあり、高校卒業時、9割の高校生が市外転出、大学卒業後Uターンする若者は3割）が問題で、中高生を対象とした2018年度の事業実施前アンケートにおいて、次の回答への半数以上が、「益田市に何も無いと思う」、「魅力的な大人が多いと思わない」、「地域の大人と話す機会がよくあると思わない」と感じている。
- ・子供は生まれているのに、地域の魅力的な大人に出会えないまま市外に出て、そのまま戻らず、結果的に多くの地区で人口減、消滅の危機につながってしまっている。

<課題解決>

- ・益田市のライフキャリア教育の刷新

従前 キャリア教育：ワークキャリア教育に偏重⇒都会志向に自然とつながる。
ふるさと教育：ふるさとを知ることに偏重⇒知ることに特化し、地域とつながっていない。

現在 仕事だけではなく、多様なライフキャリアを知る。ふるさと（地域）の人とつながり、自らの手でまちをつくる。

- ・そのために、「対話」を重視した人とつなげるための3つの柱、益田版の「カタリ場」・「職場体験」・「地域活動」の実施を行っている。

《益田版カタリ場》

地域の大人と子供（場合によって、子供同士（小学生と高校生など）が1対1で語り合い、どんな大人になりたいか、生き方を考える授業で、つながりが希薄な現代において大人とつながる機会、その後の関係づくりにも寄与。小学生から高校生まで一貫した実施で、成長するにつれ、語る側へ移行。カタリ場から、職場体験や興味のある活動への参加に派生（大人がサポート）。カタリ場実施後のアンケートでは、意欲の向上、地域の大人の印象、益田市に戻りたい思いが上昇。

【益田版カタリ場の実績】

(参加者数等)	2016年度	…	2019年度	…	2022年度
小学生の受講者数	85人		422人		408人
中高生の受講者数	270人		540人		743人
大人の参加者数(実数)	45人		149人		235人
大人の参加者数(延べ数)	50人		254人		318人
高校生の参加者数(実数)	7人		79人		116人
高校生の参加者数(延べ数)	7人		219人		281人
対話した人数(実数)	407人		1190人		1502人

(成人式でのアンケート調査の比較) ※4段階中「とても思う」・「ややそう思う」と回答した割合

「将来、益田に住みたい」	50%	⇒	80%
	(263人中132人)		(367人中253人)
「益田市には魅力的な大人が多い」	51%	⇒	81%
	(263人中133人)		(367人中259人)

2018年度成人式
(カタリ場受けていない世代)

2022年度成人式
(カタリ場受けている世代)

《益田版職場体験》

事業所からの求人票の発行、市職員等が生徒計300人ほどと面接、事業所研修会の実施、体験時の「対話の時間」を必須とし、コミュニケーションを創出(※単なる職場体験で終わらせない)。

～生徒・市・事業所にとって三方よしの結果に～

(生徒) 様々な価値観や生き方に触れ、将来を考える

(益田市) 未来の担い手育成

(事業所) PRやリクルーティング、社員、職員の研修につながる

⇒職場体験の満足度、対話の重要性の理解、事業所側の満足度の高さ

《公民館を中心とした学校の学びから地域への学び》

地域全体が「育ちの場、学びの場」という位置づけ、地域における「子縁」のネットワーク。

公民館は各地区に設置、館長や職員は会計年度任用職員で、経験を生かした人脈や事業の意図を汲み取った対応が取られている。

また、ユタラボ(一般社団法人 豊かな暮らしラボラトリー)という若者中心の中間支援組織も関わり、小・中・高校生の地域活動のひろがり、つながりへ。

子供を中心としたイベントの開催、オンラインごみ拾い、ボランティア活動など(※大人はサポート役)。

<まとめ>

・学校外の活動が豊かになり、「子供が変わる」

☞「大人が変わる」

☞「ひとづくり・まちづくり」へつながる。

・ライフキャリア教育とひとづくり、まちづくりで、意識改革へ。